

目指せ！
カーボン
ニュート
ラル

Road to
Zero
Carbon
City!

秦野市の脱炭素への取組みについて



令和7年7月26日
秦野市環境産業部 環境共生課 脱炭素推進担当

ゼロカーボンシティへの挑戦を表明

我が国は、令和2年(2020年)10月、成長戦略の柱に経済と環境の好循環を掲げ、グリーン社会の実現に注力するとした「2050年カーボンニュートラル」を表明し、翌年4月には、米国主催で開催された気候変動リーダーズサミットにおいて、温室効果ガス削減の中期目標を、これまでの26%から46%へと大幅に引き上げることを表明しました。



こうした国内外の動向や潮流を捉え、秦野市は、令和3年(2021年)2月に「2050年ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明しました。

↳ 全国で285例目。県内では12例目

その実現に向けた足元からの取組みを着実に推進するため、令和4年度を始期とする「秦野市地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

秦野市地球温暖化対策実行計画

本計画は、秦野市域内の脱炭素化に向けたロードマップであり、

- ① 秦野市域内の脱炭素化を定める【区域施策編】
- ② 秦野市役所の脱炭素化を定める【事務事業編】
- ③ 気候変動に対して備える【適応策編】

の3編から構成されています。

➤ 計画期間

令和4年度(2022年度)～令和12年度(2030年度)

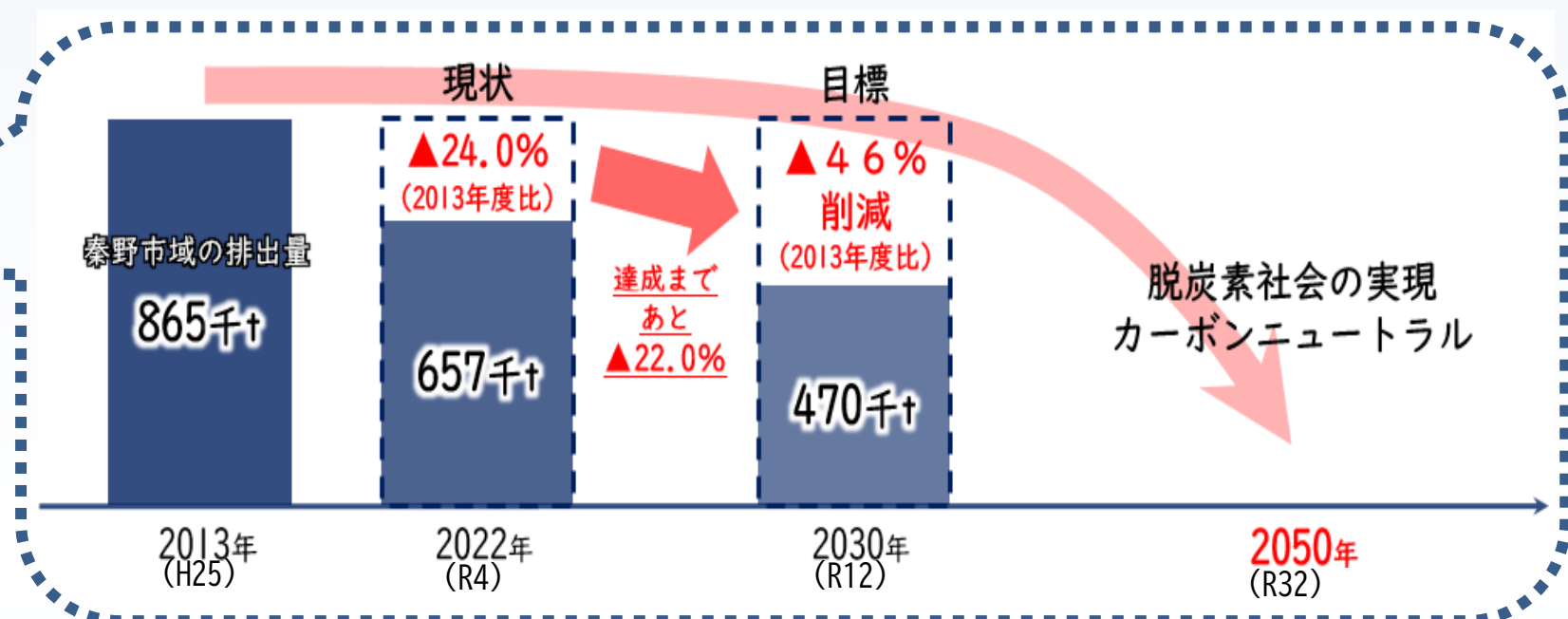
➤ 基準年度

平成25年度(2013年度)

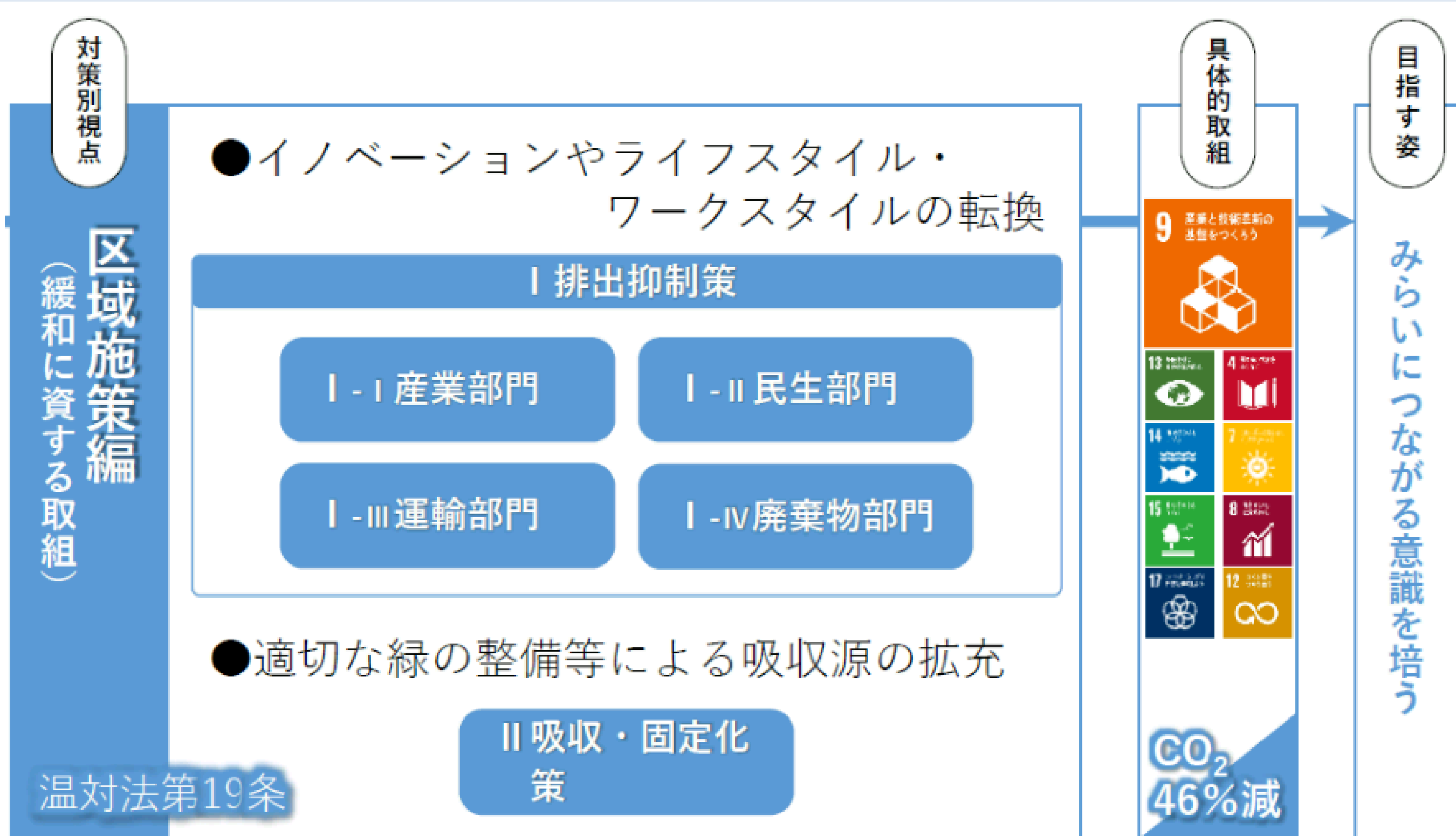
➤ 2030年度の数値目標(2013年度比)

① 区域施策編 **46%削減**
(865千t ⇒ 470千t)

② 事務事業編 **50%削減**
(16,602t ⇒ 8,301t)



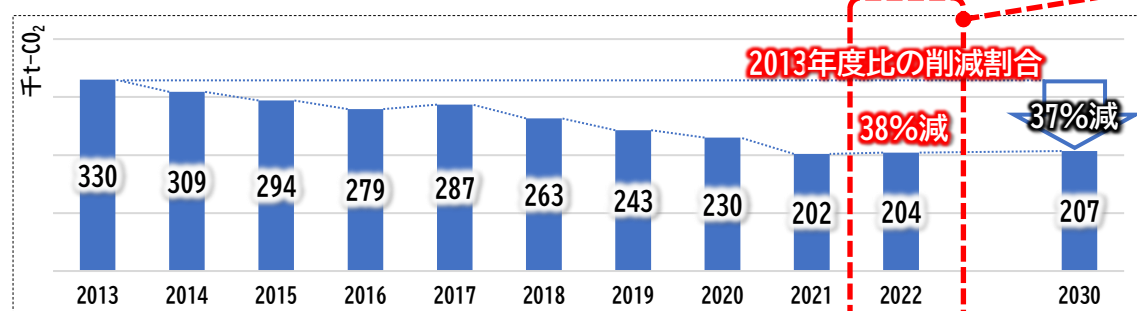
実行計画の区域施策編（秦野市域）の取組み



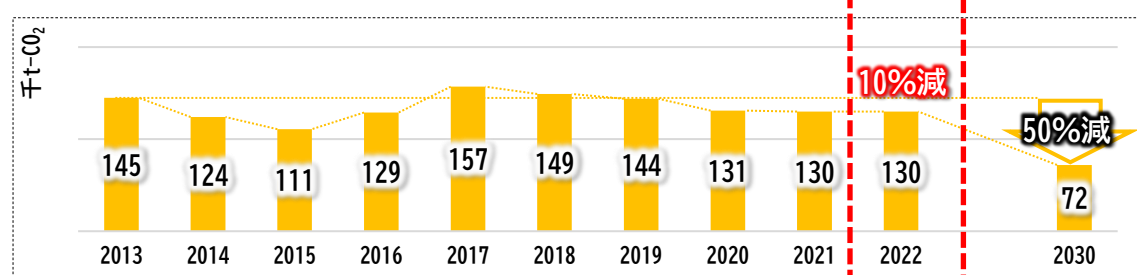
区域施策編の部門別削減量の推移と市民への協力

I 排出抑制策

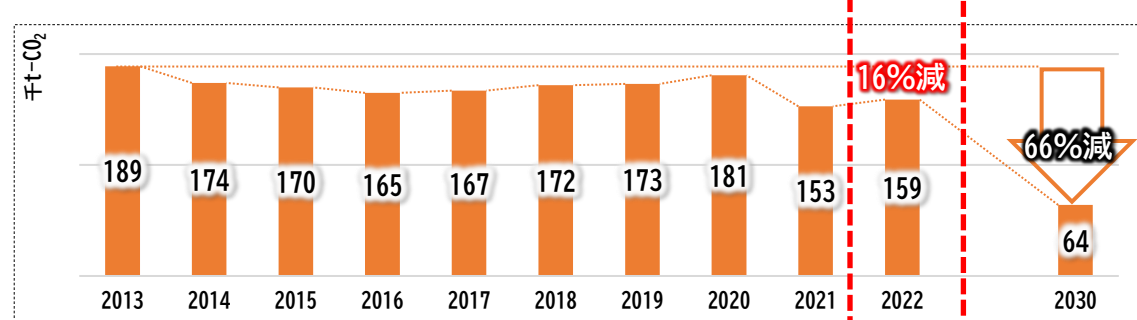
- I 産業部門（第一次及び第二次産業の事業活動から排出される二酸化炭素量）



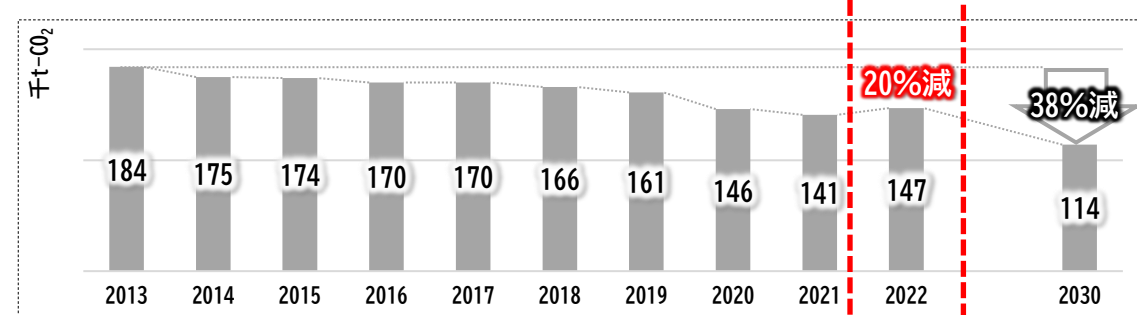
- II A 民生(業務)部門（第三次産業の事業活動から排出される二酸化炭素量）



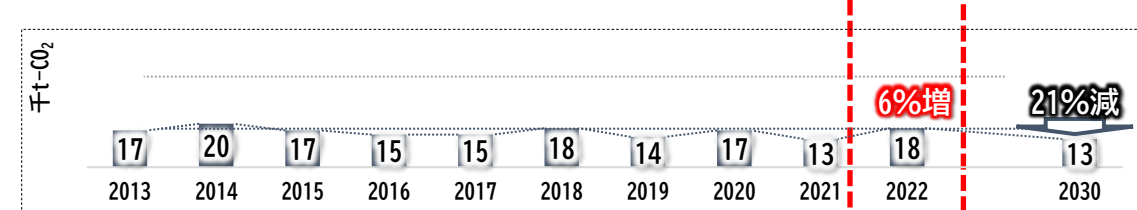
- II B 民生(家庭)部門（一般家庭の経済活動から排出される二酸化炭素量）



- III 運輸部門（住宅・工場・事業所の外部で人・物の輸送・運搬により排出される二酸化炭素量）



- IV 廃棄物部門（一般廃棄物の焼却や下水処理等により排出される二酸化炭素量）



2013年度比で
24.0%の削減
(総排出量: 657千t-CO2)
あと、**▲22.0%**

さらなる削減のために、市民のみなさんが協力できること
～「ムリなく・ムダなく・ムラなく」にチャレンジ！～

- エアコン → 設定温度の徹底。フィルターの定期的な清掃（月1～2回）
- テレビ → 画面の輝度の調整
- パソコン → 使わないときは電源を切る。
- 冷蔵庫 → 物を詰め込みすぎない。無駄な開閉はしない。開けている時間は短く。
- 蛍光灯 → LEDランプに変更する。蛍光灯の点灯時間を短くする。
- 電気便座 → 使わないときはフタを閉める。暖房便座・洗浄水の温度は低めに。
- 炊飯器 → 使わないときはプラグを抜く。
- 電子レンジ → 野菜を上手に下ごしらえ
- ガスコンロ → 炎がなべ底からはみ出さないように調整
- 風呂 → 入浴は間隔を開けずに。シャワーは不悉用に流さない。 etc

- 自家用車 → 自家用車の使用を控える。近場への移動や通勤・通学は、なるべく徒歩、自転車及び公共交通機関を利用する。

- ごみ → ごみを3つのRに取り組む。
 - Reduce（リデュース）／発生するごみをできるだけ減らす。
 - ・ 買い物袋（エコバック）を持参する。
 - ・ 過剰包装や不要な包装は断る。
 - ・ 買いすぎないように、必要な分だけ買う。
 - ・ 洗剤、シャンプーなどは、中身を詰め替えられる商品を買う。
 - ・ 再生品やエコマークのついた商品など環境にやさしい商品を選ぶ。
 - Reuse（リユース）／使えるものはできるだけ繰り返し使う。
 - ・ リターナブル容器のものを選ぶ。
 - ・ フリーマーケット、リサイクルショップなどを活用する。
 - Recycle（リサイクル）／資源として再利用する。
 - ・ ごみと資源をきちんと分別する。
 - ・ 生ごみ処理機などを利用し堆肥化する。

2050カーボンニュートラル

脱炭素に向けた率先行動

率先行動① ～再生可能エネルギーの導入①～



市役所本庁舎・西庁舎、小中学校、公民館、保健福祉センター及び弘法の里湯については、再エネ100%の電気を導入しています。

また、上下水道施設においても、再エネ由来の電気を一部導入しています。

脱炭素に向けた率先行動

率先行動② ～再生可能エネルギーの導入②～



再生可能エネルギーの取組みの一環として、浄水管理センターの敷地を活用して、PPA方式(※)により太陽光発電設備を導入し、本年4月から供用開始しました。

設置施設の約10%の電力を供給し、電気料金の節約や二酸化炭素排出削減に貢献しています。

- ・コスト削減額(年間) 186万円
- ・CO2削減量(年間) 286t-co2

※ PPA(Power Purchase Agreement)方式とは、企業や自治体が自らの敷地や屋根に太陽光発電設備などを設置する事業者(PPA事業者)と契約を結び、発電した電力を購入する仕組み

脱炭素に向けた率先行動

率先行動③ ～照明のLED化～



令和5年度から7年度までの3年間で、庁舎などの公共施設68施設のLED化を進めています。

このLED化によって、約800tの二酸化炭素が削減される見込みです。

脱炭素に向けた率先行動

率先行動④ ～電気自動車の導入～



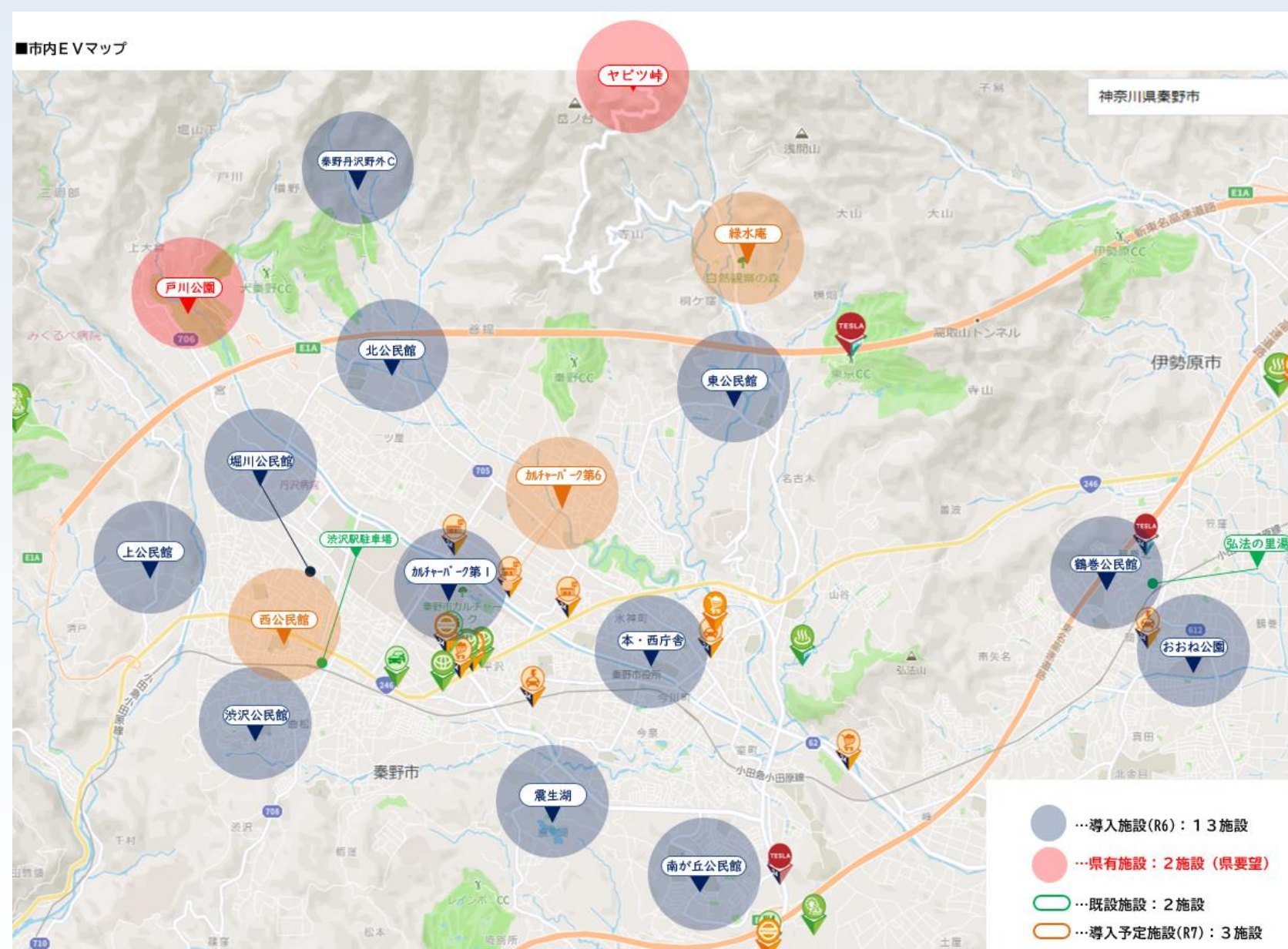
公用車については、令和12年度までに全公用車の39%を次世代自動車（HV, PHV, EV, FCV）に移行することを目標にしています。

そうした中、令和6年度までに、電気自動車を5台、ハイブリッド車は21台導入しています。

令和7年度は、新たに電気自動車を2台、ハイブリッド車を1台導入します。

脱炭素に向けた率先行動

率先行動⑤ ～ E V 充電設備の導入～



E V車が飛躍的に普及していることから、令和6年度に、秦野市役所本庁舎、西庁舎及び公民館などの公共施設13施設に設置しました。

令和7年度は、新たに3施設への設置を予定しています。



啓発事業・環境教育

啓発事業① ～環境月間等による啓発～

実施日	事業名	事業内容
6/2～	緑の輪を広げよう 苗の配布	ゴーヤ、キュウリ、なでしこの苗の 配布
6/6～ 6/30	未来を守る環境パネル 展	環境(自然、脱炭素、秦野名水)に 関するパネル展示
6/8	はだの環境フェスタ・ もりりんと森の音楽隊	オリジナルエコバックや光る短冊の 作成、苗の配布、秦野名水のPR等
6/8	子ども環境講座	電池を使わないオルゴール作り
6/21・ 7/7	ライトダウン2025	市内の企業や家庭に対する20時か ら22時の一斉消灯の協力依頼
7/7	セタライトダウン inカルチャーパーク 【市制70周年記念事業】	水に濡らすと電気を発生するマグネ シウム電池を活用した「光る短冊」の 作成及び点灯式

毎年6月の「環境月間」において、脱炭素を含めた環境保全に関する啓発事業を展開しています。

令和7年度は市制施行70周年に因んで、既存事業に他に、令和7年7月7日の午後7時から「セタライトダウンinカルチャーパーク」を実施しました。



啓発事業・環境教育

啓発事業②

～脱炭素系ポータルサイト「はだのde脱炭素」の運用～

令和6年10月下旬に開設。

脱炭素に係るリアルタイム且つ有意義な情報提供に加え、市内企業による脱炭素の取組みを紹介するなど、市民においてはライフスタイルの変容が、事業者においては脱炭素経営への転換が加速していくことを期待しています。



新着情報ページを設け、最新のトピックを掲載。

国や県の補助金や支援策の情報がワンクリックで入手可能。

URL <https://rarea.events/features/hadano-datsutanso>

「私たちの脱炭素」企業訪問レポート

秦野を中心に地球温暖化対策に取り組んでいる秦野市内の「はだの脱炭素コンソーシアム（共同事業体）」の会員企業さまの取材レポートです。

【はだのde脱炭素・企業訪問レポvol.1】フランス企業の日本法人 秦野市が拠点「レイモンジャパン株式会社」の取り組みとは？



【はだのde脱炭素・企業訪問レポvol.2】秦野市民の生活インフラを担う「秦野ガス株式会社」の取り組みとは？



啓発事業・環境教育

環境教育 ～エコスクールなどの実施～



環境学習の支援を目的とした「はだのエコスクール」は、市内幼小中学校や保育園などで実施しています。

子どもたちが、講義・体験を通じて、秦野の自然に触れる、知るきっかけになり、「じぶんごと」にできるプログラムです。

34メニューの一つとして温暖化対策に係る出前講座を実施しています。

令和5年度からは新たに「効果定量型省エネ教育プログラム」を加え、児童生徒に対する環境教育の充実を図っています。

事業者向けの取組み

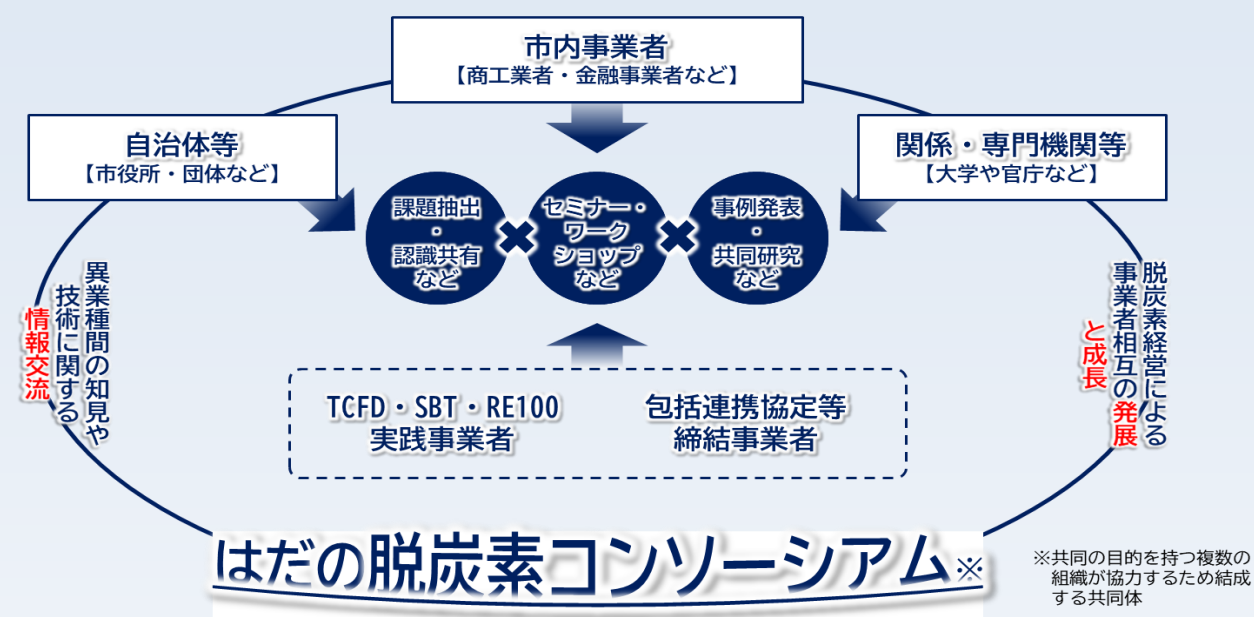
～はだの脱炭素コンソーシアム～

秦野市域を中心に活動する事業者が、近年の“脱炭素”をキーワードとした事業経営の潮流に取り残されることなく、持続可能な発展と成長を遂げられるよう、令和5年6月2日に設立。

参画事業者同士で、雑談から始まるコミュニケーションの構築や、情報共有、共同事業を行っていくことを目的としています。

市役所も一事業者として同じ目線で参画し、事業者の皆さまと同じく悩みながら、脱炭素経営を目指しています。

【コンソーシアムには、現在49企業が参画中】



定例会(ディスカッション)の様子

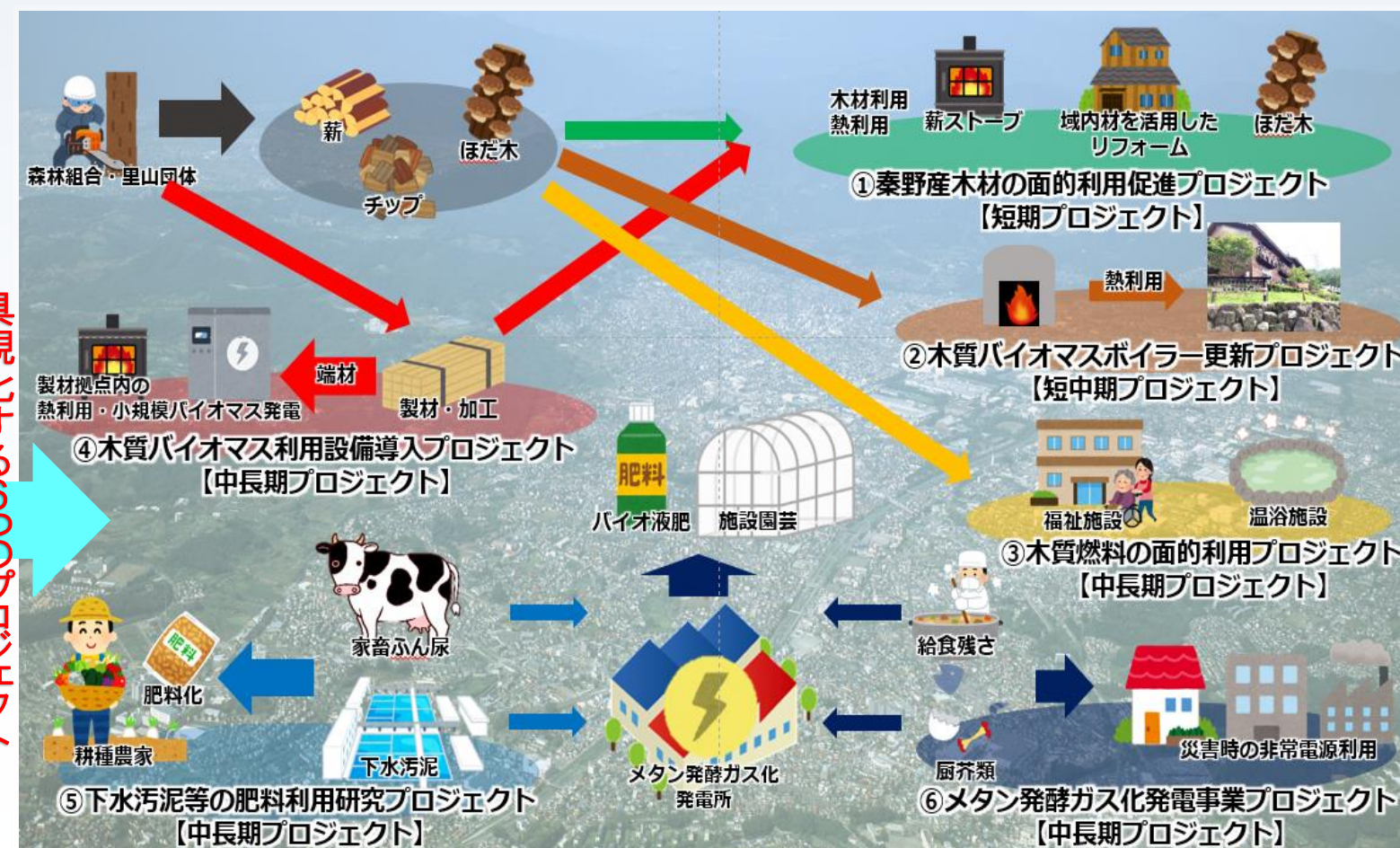
その他取組み

～秦野市バイオマス産業都市構想～

- 「バイオマス産業都市」とは、地域で発生するバイオマス（下水汚泥、家庭生ごみ、剪定枝、木質未利用材など）を整理・加工し、地元で循環・再利用するまちづくりの仕組みのことで、本市は「秦野市バイオマス産業都市構想」を策定の上、令和7年2月に関係7府省の審査を経て、全国で104例目となるバイオマス産業都市の認定を受けました。
- 豊富な森林資源を木材そのものとして「製品利用」することを特徴に、6つの事業化プロジェクトを市民や事業者の有機的な連携のもと推進し、地域経済への波及、脱炭素社会と循環型社会の構築に向けたまちづくりを目指していきます。



具現化する6つのプロジェクト





脱炭素社会は、みんなごとの意識で創り出そう！！



ご清聴ありがとうございました。